

2022年5月15日(日)／説教者：國分美生

説教：「教会はどこに建っているか」

聖書：マルコによる福音書6：53～56

私たちは毎週この場所、この教会に主によって運ばれてきて、礼拝を一緒に捧げて、交わりを持ち、また新たな一週間をキリストと共に歩むためにこの世へと出ていきます。主が教会共同体に、イエス・キリストの体としてどのような働きを願っておられるか、考えさせられます。

イエスは絶えず、いろいろな場所に出かけて行かれました。福音伝道の旅をするイエスのもとには、自分が求めている助けはここにあるんじゃないだろうか、と必死に助けを求める人々の群れが集まってきたことが本日の箇所からわかります。出かけた先は、飢えて生活に困窮し、生きる可能性が本当に小さくされた、希望を奪われた人々のところでした。紀元一世紀の、ローマ帝国とユダヤの権力者から二重の支配を受けていたユダヤでは貧困状態の人が大半だったでしょうし、イエスや弟子たちも例外ではなかったはずです。

新共同訳聖書で「癒された」と訳されている 56 節は元々の意味を辿ると、苦しみや危険から救い出す、という意味です。もちろん病気が治るということもとても大事ですが、それを超えて、1 人の価値・尊厳ある人間としてこの世に生きる場所を再び与えられた、ということに重きが置かれています。その人の人生に、キリストによって希望が与えられた。だから立ち上がり、自分の人生を再び自分の足で立って歩み始め、そして再び隣人と出会い隣人と繋がることが出来た。そのことが救いであるのだとマルコ福音書は言うのです。私たちにとっては、キリストの救いの業は、主から教会に委託された、教会が行うべき働きでもあります。

普天間バプテスト教会はここ、宜野湾市野嵩地区に立っています。主がこの地に建てられました。教会は長い間、ここに救いを求めてやってくる方たちの受け皿となってきました。ですがこの教会の働きはそれだけではありません。私たちの教会はこの建物を拠点としながらも、イエスが先立って働いておられる、その一つ一つのどこかの現場に立ち会う働きも、また担わされています。イエスのみあとに着いて行く私たちが、その現場で、希望と救いを求めている人々と出会って、具体的な助けの行動を行うとき、それは慈善事業ではなく教会の働きとなっていくのです。私たちが進みゆく道、そしてやがて出会う隣人との出会いの中にすでにイエス・キリストが先立ってそこにおられ、働いておられるからです。(國分美生)